



第97号

(発行所)
 真宗大谷派
松岡山 廣讚寺
 中村区城屋敷町3-30
 TEL (052) 411-5301
 FAX (052) 411-5341
 携帯 090-1568-4623
 <E-mail>
 matsuoaka@kosanji.or.jp

歎異抄の有名な一節

善人尚もて往生をとぐいわんや悪人をや

【現代語訳】

善い行いをしている者でさえ救われるのだから、悪い人間が救われるのは当然のことだ。

普通なら、悪人が救われるのだから、善人が救われるのは当たり前前というのですが、親鸞聖人はそのようにおっしゃっておられません。

なぜでしょうか？

悪人とは

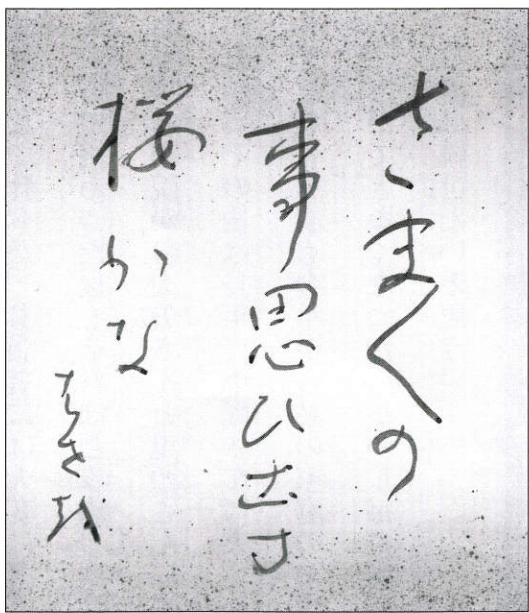
自分のことをよくよく見つめ、自分の煩惱悪業に気

づき、自分はどうしようもない人間だとかなずけた時、自分は悪人であることを心の底から自覚できる。

善人とは

逆に、自分はそのなに悪いことはやってない、むしろ善い行いをすすんでしている、そんな自分は善人だから何とかやっていけると思いこんでいる人。

ということでおっしゃっているのです。



さまさまの

事思ひ出す

桜かな

はせお (芭蕉)

清寿庵報恩講、終了につき

伊藤和美

私の父は青島^{ちんたお}・南京の戦地に行った。そして一緒に行った戦友がたくさん亡くなり、そのことは深く心に刻まれた。そして妻(私の母)を36歳の時に亡くした。その2つの大きな悲しい出来事が僧侶になる機縁となった。昭和37年に得度をし、僧侶としての道を歩むことになった。

稲葉地農協が建てなおされる時に出た廃材を寄付され、その廃材で清寿庵の本堂を建立したのが昭和45年。戦死者の名簿も安置し、その後ずっと40数年そこで報恩講を厳修してきた。参詣者はいつも50人から70人、多い時には90人近くの人がお参りにみえた。去年も多数の参詣者がみえた。お斎は後藤さんから、うどんやきしめんを80人前ほど出前してもらい本堂に机を並べ



てみんなで食べた。参詣者には大変に喜ばれた。そしてお斎が終わった後もそれほど参詣者は減らなかった。お勤めは別院から大矢さんと鬼頭さんに来てもらっていたが、その後は長年、小塚さんに来てもらっていた。そんな報恩講も今年から私の家庭の事情により勤めることができなくなった。しかし毎月勤めている二十三日講は続けたいと思う。

人がやること

最近では電車に乗るのにもカードで「ピッ」と改札口を通るのが普通になった。

例えば、たくさんの人が行きかう東京駅では26年前に自動改札機を導入したとのこと。26年たった今では切符を切る改札駅員もほとんどいなくなった。電話交換手がいなくなったように。そのうち電車の運転手もいなくなるかもしれない。

アメリカの会社、グーグル社が10年後になくなっていく仕事というものを発表した。スポーツの審判、レジ係、集金人、測定を行う仕事全般など、たくさんの職種がなくなると予想している。こうなっていくのもすべてはコンピューターの発展が見込まれているからだ。

さらに20年後には、交番の警察官、教員、一般事務職、

受付案内業務などの姿が消えると予測されている。防犯カメラの発達や、事務ソフトの発展など、どんどん人による仕事がなくなっていくのである。

「便利になり楽になったね」という思いも、それだけ人の手がいらなくなったということであろう。

手塚治虫氏が描いた漫画を思い出した。なんでもかんでもコンピューターやロボットがやってくれる世界になる。人間は何もしない。食う・寝るだけで、どんどん大きくなり太っていく。そして最後は太った体が、はちきれて死んでしまうという話。

そんな話も現実離れた話ではなくなるかもしれない。何をするために人間は生きていくのか。ロボットに面倒をみてもらうためだけに生きているというのでは何ともむなしいものである。

行事予定

四月 二日(土) 二時 常任委員会

九日(土) 七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)

十七日(日) 同朋会旅行(真宗四本山)

十九日(火) 二時 学習会

二十八日(木) 十時 おみがき

五月 五日(祝) 復興永代経執行

午前十時より おつとめ おとき

説教 荒山 優師

五月 十四日(土) 七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)

十九日(木) 二時～四時 学習会

二十八日(土) 十時 二十八日講・女人講

【東別院行事】

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌

四月二十二日(金)～四月二十四日(日)

四月二十六日(火)～五月一日(日)

